

広島市英語教育改善プラン

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

【高等学校】

＜本市の現状及び目標＞

① 求められる英語力（CEFR B2レベル以上）を有する英語担当教員の割合

2021年度の調査結果で見たところ、求められる英語力を有する本市の英語担当教員の割合は85.0%となっており、国の第2期教育振興基本計画で定めていた目標値（75%）に達している状況である。引き続き、教員の指導力・英語力の向上を図るため、採用や自己研鑽等での外部検定試験の活用を促し、引き続き、80%の英語担当教員が求められる英語力を有していることを維持したい。

高等学校	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	目標値	70.0%	75.0%	80.0%	80.0%	80.0%
	達成値	63.0%	74.1%		85.0%	

② 求められる英語力（CEFR A2レベル以上）を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合

2021年度の調査結果で見たところ、求められる英語力を有している、あるいは有すると思われる本市の生徒の割合は65.2%となっており、国の第3期教育振興基本計画で定めている目標値（50%以上）よりも高い状況である。新学習指導要領が年次進行で開始される2022年度には、70%の生徒が求められる英語力を有している（有すると思われる）ことを目標としたい。

高等学校	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	目標値	63.0%	65.0%	67.0%	70.0%	70.0%
	達成値	58.4%	61.2%		65.2%	

③ 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

2021年度の調査結果で見たところ、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定し、学習到達目標を公表したうえで、達成状況を把握している学校の割合は100%となっている。生徒の学習改善や教師の指導改善を行うために、「CAN-DOリスト」を設定及び公表し、活用することは重要であることから、今後も100%を維持できることを目標としたい。

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
高	設定	目標値			100%	100%	100%
		達成値	100%	100%		100%	
	公表	目標値			100%	100%	100%
		達成値	87.5%	85.7%		100%	
	把握	目標値			70.0%	85.0%	100%
		達成値	50.0%	57.1%		100%	

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

2021年度の調査結果で見たところ、生徒が英語を用いて言語活動をしている時間の1単位時間の授業に占める割合が50%程度を超える割合は91.8%となっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応により、話すこと等に関する活動を制限せざるを得なかった影響もあるが、新学習指導要領には、「言語活動を通して」コミュニケーションを図る資質能力を育成することを目指すとされていることから、新学習指導要領が年次進行で開始される2022年度には、100%を達成できることを目標としたい。

- ・ コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ、英語表現Ⅰ～Ⅱの授業において、生徒が英語を用いて言語活動をしている時間の1単位時間の授業に占める割合が50%程度を超える割合

高等学校	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
	目標値			90.0%	100.0%	100%
	達成値	78.6%	86.1%		91.8%	

⑤ パフォーマンステストの実施状況

2021年度の調査結果で見たところ、パフォーマンステストの実施状況は、スピーキング及びライティングのパフォーマンステストの両方を実施している授業の割合は80.0%となっている。「話すこと」及び「書くこと」について適切に評価を行うために、パフォーマンステストを実施することは必須であることから、コミュニケーション英語（新課程では英語コミュニケーション）では2.0回を、英語表現（新課程では論理・表現）では、4.0回を目標としたい。

- ・ 各授業におけるパフォーマンステストの年間回数の平均

			年 度	2018	2019	2020	2021	2022	
現行課程	スピーキングテスト	コミュ英Ⅰ	目標値			2.0回	2.0回		
			達成値	1.3回	1.6回		2.2回		
		コミュ英Ⅱ	目標値			2.0回	2.0回	2.0回	
			達成値	0.6回	0.9回		1.4回		
		コミュ英Ⅲ	目標値			2.0回	2.0回	2.0回	
	達成値		0.1回	0.5回		1.6回			
	英語表現Ⅰ	目標値			4.0回	4.0回			
		達成値	1.3回	1.0回		1.6回			
		英語表現Ⅱ	目標値			4.0回	4.0回	4.0回	
			達成値	0.5回	0.2回		2.4回		
ライティングテスト		コミュ英Ⅰ	目標値			2.0回	2.0回		
	達成値		1.7回	2.1回		1.8回			
	コミュ英Ⅱ	目標値			2.0回	2.0回	2.0回		
		達成値	1.0回	2.3回		2.0回			
	コミュ英Ⅲ	目標値			2.0回	2.0回	2.0回		
		達成値	0.1回	1.0回		2.2回			
	英語表現Ⅰ	目標値			4.0回	4.0回			
		達成値	2.3回	3.0回		3.6回			
	英語表現Ⅱ	目標値			4.0回	4.0回	4.0回		
		達成値	3.0回	4.7回		4.8回			
新課程	スピーキングテスト	英コミュⅠ	目標値					2.0回	
			達成値						
	論理・表現Ⅰ	目標値						4.0回	
		達成値							
	ライティングテスト	英コミュⅠ	目標値						2.0回
			達成値						
		論理・表現Ⅰ	目標値						4.0回
			達成値						

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

2021年度の調査結果で見たとおり、コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ、英語表現Ⅰ～Ⅱの授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合は、81.0%である。現行及び新学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と示されていることから、新学習指導要領が年次進行で開始される2022年度には、100%を達成できることを目標としたい。

- ・ コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ、英語表現Ⅰ～Ⅱの授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
高等学校	目標値			90.0%	100.0%	100%
	達成値	77.9%	76.0%		81.0%	

【中学校】

<本市の現状及び目標>

① 求められる英語力（CEFR B2レベル以上）を有する英語担当教員の割合

2021年度の調査結果で見たとおり、求められる英語力を有する本市の英語担当教員の割合は62.0%となっており、国の第2期教育振興基本計画で定めていた目標値（50%）に達している状況である。教員の指導力・英語力の向上を図るため、採用や自己研鑽等での外部検定試験の活用を促し、引き続き、60%以上の英語担当教員が求められる英語力を有していることを維持したい。

	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	55.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%
	達成値	48.3%	57.7%		62.0%	

② 求められる英語力（CEFR A1レベル以上）を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合

2021年度の調査結果で見たとおり、求められる英語力を有している、あるいは有すると思われる本市の生徒の割合は、54.0%となっており、第3期教育振興基本計画で定めている目標値（50%以上）よりは高い状況である。さらに、4技能5領域を有機的に結び付けた言語活動の充実に取り組み、60%の生徒が求められる英語力を有している（有すると思われる）ことを目標としたい。

	年 度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	53.0%	55.0%	60.0%	60.0%	60.0%
	達成値	47.5%	48.0%		54.0%	

③ 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

2021年度の調査結果で見たとおり、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定し、学習到達目標を公表したうえで、達成状況を把握している学校の割合は100%となっている。生徒の学習改善や教師の指導改善を行うために、「CAN-DOリスト」を設定及び公表し、活用することは重要であることから、今後も100%を維持できることを目標としたい。

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	設定	目標値			100.0%	100.0%	100.0%
		達成値	100%	100%		100.0%	
	公表	目標値			70.0%	100.0%	100.0%
		達成値	42.2%	56.3%		100.0%	
	把握	目標値			100.0%	100.0%	100.0%
		達成値	100.0%	100.0%		100.0%	

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

2021年度の調査結果で見たとおり、授業の半分以上の時間、言語活動を行っている生徒の割合は90.5%となっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応により、話すこと等に関する活動を制限せざるを得なかった影響もあるが、学習指導要領には、「言語活動を通して」コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指すこととされていることから、2022年度には、100%を達成できることを目標としたい。

- 英語の授業において、生徒が英語を用いて言語活動をしている時間の1単位時間の授業に占める割合が50%程度を超える割合

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値				95.0%	100.0%	100.0%
	達成値	91.3%	89.2%		90.5%		

⑤ パフォーマンステストの実施状況

2021年度の調査結果で見たとおり、スピーキング及びライティングのパフォーマンステストの両方を実施している学校の割合は90.1%となっている。「話すこと」及び「書くこと」について適切に評価を行うために、パフォーマンステストを実施することは必須であることから、2022年度には、スピーキングテスト・ライティングテスト共に、4.0回実施することを目標としたい。

- 英語の授業におけるパフォーマンステストの年間回数の平均

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	スピーキング テスト	目標値			3.0回	4.0回	4.0回
		達成値	2.4回	2.5回		4.2回	
	ライティング テスト	目標値			3.0回	4.0回	4.0回
		達成値	2.8回	2.5回		3.2回	

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

2021年度の調査結果で見たとおり、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合は90.5%となっている。学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際コミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と示されていることから、2022年度には、100%を達成できることを目標としたい。

- 英語の授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

		年度	2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値				90.0%	100.0%	100.0%
	達成値	89.9	87.1%		90.5%		

【小学校】

＜本市の現状及び目標＞

① 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

2021年度の調査結果で見たところ、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している割合は、98.6%、公表している割合は60.3%、その達成状況を把握している割合は84.4%となっている。児童の学習改善や教師の指導改善を行うために、学習到達目標を設定し、到達目標を把握することは重要であることから、2022年度には全ての項目について100%を達成することを目標としたい。

		年度	2020	2021	2022
小学校	設定	目標値	50.0%	75.0%	100.0%
		達成値		98.6%	
	公表	目標値	50.0%	75.0%	100.0%
		達成値		60.3%	
	把握	目標値	50.0%	75.0%	100.0%
		達成値		84.4%	

【小学校英語専科】

＜本市の現状及び目標＞

新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

2022年度は、新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合は、12.5%であった。引き続き、英語力を有する優秀な人材確保に向けての取組を進め、2025年度には、50%を達成できることを目標としたい。

		年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
小学校	割合 (%)	目標値		18%	26%	34%	42%	50%
		達成値	9.6%	6.8%	12.5%			
	人数 (人)	目標値		23人	26人	34人	42人	50人
		達成値	16人	12人	17人			

(2) (1) の目標を達成するための取組 (施策の全体像と具体的な計画)

英語教育リーディング校において、先進的な取組を実施し、その成果や好事例を全校へ普及する。

- ・ 中等教育学校英語教育研究校 (広島中等教育学校) において、効率的・効果的な教育方法を研究・開発するとともに、その成果や好事例を全ての高等学校及び英語教育特別研究校と共有する。
- ・ 英語教育特別研究校 (大塚中学校区) において、中等教育学校英語教育研究校での研究成果や好事例を検証するとともに、その成果や好事例を英語教育実践研究校と連携して全小・中・高等学校へ普及する。
- ・ 英語教育実践研究校 (伴中学校区、仁保中学校区、矢野中学校区、早稲田中学校区) において、英語教育特別研究校での研究成果や好事例を検証するとともに、その成果を全小・中・高等学校へ普及する。

○英語教育リーディング校における取組について

育成する 資質・能力	英語授業の充実		英語を使う場の多様化			学習支援	効果検証
	ALTを活用した取組	授業づくり	体験活動等のイベントの企画	環境整備	ICT機器の活用		
小学校 身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、内容を整理しながら、自分の考えや気持ちを伝えることができる	●異文化理解学習の実施	●「目的や場面、状況」のある言語活動の設定	●英語絵本の読み聞かせ ・全教職員による学校全体の取組としての実施	●English Roomの効果的な活用 ・英語書籍の設置 ・掲示物の工夫	●他校との英語での交流会の実施 ・英語での学校紹介等の実施	●デジタル教材の活用	インタビューテスト 児童アンケート
中学校 具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、自分(たち)の考えや気持ちを伝えることができる	●ALTの背景を生かした授業づくり ●ALTとのTT授業づくり(打ち合わせ)モデルの作成	●「目的や場面、状況」のある言語活動の設定	●E-Campの実施 ・英語でcooking ・日本伝統遊びの紹介等	●English Roomの効果的な活用 ・英語書籍の設置 ・英語ゲーム等の作成、設置 ・放課後留学の実施	●他校との英語での交流会の実施 ・放課後留学での学校紹介等	●端末を活用してのeラーニングの推進 ●デジタル教材の活用	インタビューテスト ペーパーテスト 生徒アンケート
高等学校・中等教育学校 日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に伝え、適切に伝えることができる	●ALTを活用したパフォーマンスの評価モデルの作成	●「目的や場面、状況」のある話すこと(やりとり)の指導モデルの作成	●留学生の受け入れ、交流 ●姉妹校との連携、交流	●LL教室等の効果的な活用 ・英語書籍の設置 ・放課後留学の実施 ・留学情報の発信	●他校との英語での交流会の実施 ●海外生徒との共同学習	●端末を活用してのeラーニングの推進 ●オンライン英会話の実施 ●デジタル教材の活用	インタビューテスト 生徒アンケート
教育委員会	研究推進に係る指導助言 広島市英語教育推進協議会の設置・運営					効果検証に基づく施策の見直し	
	小学校へのALT配置	先行事例の紹介	E-Camp等の支援	消耗品費の支援	校種間の調整	先行事例の紹介	

【小学校英語専科について】

- 本市においては、平成 27 年から教員採用候補者選考試験一般選考について、一定の基準 (英検準 1 級等) に到達した志願者を対象に、第一次選考試験における筆記試験の得点に最大 20 点の加点を行い、英語力を有する優秀な人材確保に向けての取組を進めている。
- 今後とも、採用選考試験説明会等において、優遇制度を周知し、志願者の積極的な英語に係る資格取得促進に取り組むこととしている。

<令和4年度の研修予定>

【英語教育研究指定校に係る研修】

①

研修名	中等教育学校英語教育研究校、英語教育特別研究校及び英語教育実践研究校における公開授業研究会（担当：指導第二課）
対象	小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の外国語科教員
目的	各英語教育研究校において公開研究会を実施し、聞くことや話すことを中心としたコミュニケーション能力の育成を目指した授業提案や好事例及び研究成果を普及する。
内容	<p>【公開授業研究会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観及び協議 <p>【実践発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「英語授業の充実」、「英語を使う場の多様化」、「学習支援」等を柱とした取組の実践発表
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> アンケート

【教員研修】

②

研修名	A L T活用研修会（担当：指導第二課）
対象	小学校・中学校・中等教育学校・高等学校の外国語科教員
目的	英語で自分の考えや気持ち、情報を伝え合ったりする機会の充実を図ることで、身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を育成するための授業づくり等に資する。
内容	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実に向けた授業改善 <p>【実践発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実を図った授業改善について（広島市立中学校教諭） <p>【事務連絡】</p>
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> アンケート 活用計画書

③

研修名	小学校英語専科指導教員研修（担当：教育センター、指導第一課）
対象	英語専科指導教員
目的	学習指導要領で求められる資質・能力を育む授業づくりと評価について理解するとともに、その実現に向けた見通しをもつ。
内容	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語科の基礎・基本（指導第一課職員） 外国語教育の系統性（教育センター職員） <p>【講義・演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語科授業づくり（指導第一課職員、教育センター職員） 指導に生かす学習評価の在り方（指導第一課職員） 効果的な言語活動が設定された授業づくり（広島市立小学校教諭、教育センター職員） <p>【交流・演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導の振り返りと改善計画（指導第一課職員、教育センター職員）
受講予定者数	110名
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 研修内容活用シート アンケート

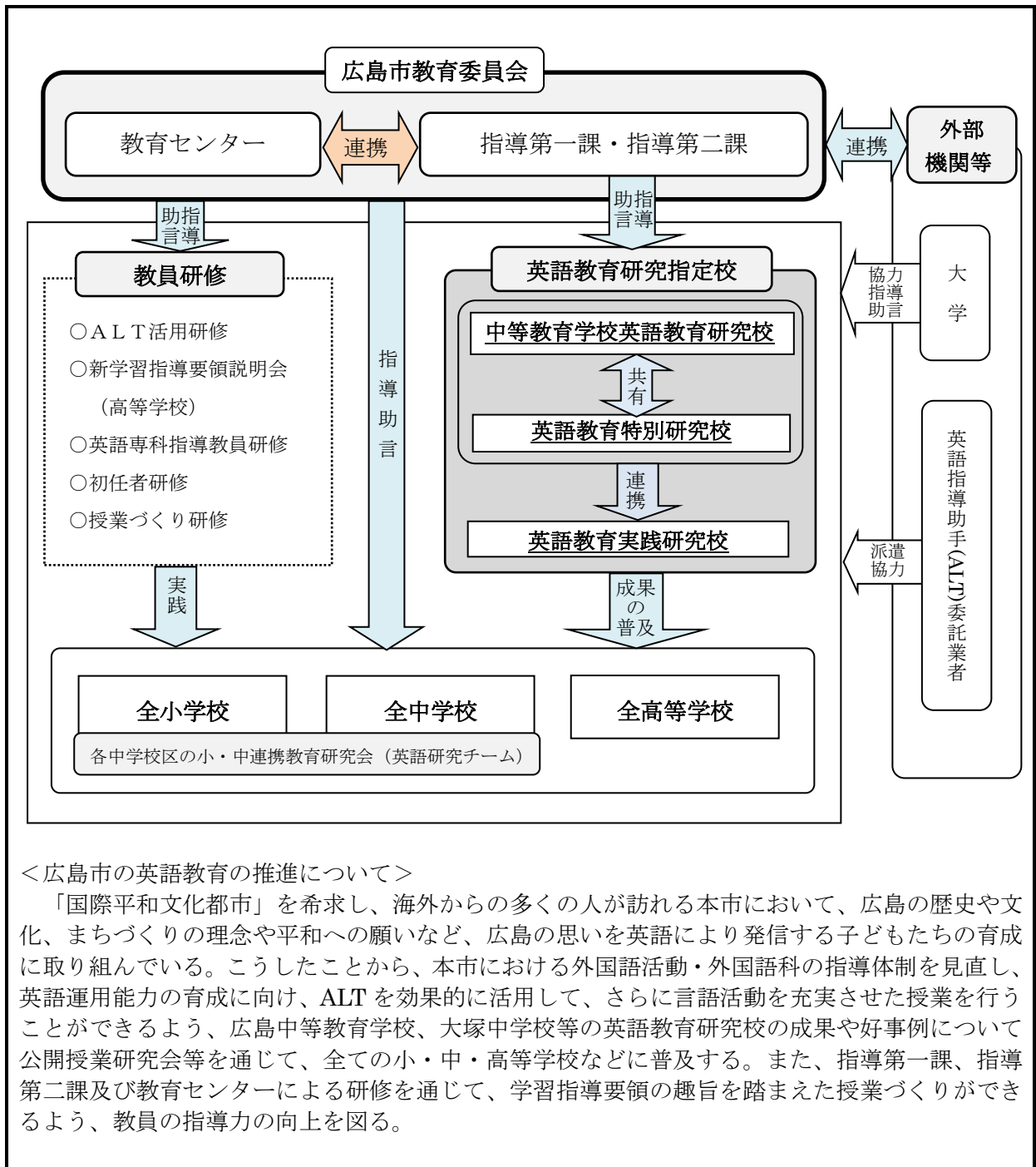
④

研修名	初任者研修(担当:教育センター)
対象	令和4年度新規採用教諭
目的	教育実践に関する基本的事項について理解するとともに、教育公務員としての自覚をもち、教育活動に必要な実践的指導力を高める。
内容	<p>【事前研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導の基本 (指導第一課職員、指導第二課職員) <p>【講義・演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導の実際 (指導第一課職員、指導第二課職員、教育センター職員) <p>【授業研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属校における授業研究 (指導第一課職員、指導第二課職員、特別支援教育課職員) <p>【相互参観研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相互参観研修 (指導第一課職員、指導第二課職員、特別支援教育課職員)
受講予定者数	244名
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ セルフマネジメントシート ・ 3年間振り返りシート ・ 研修レポート ・ アンケート

⑤

研修名	授業づくり研修(探究的な学習を実現する授業づくり) (担当:教育センター)
対象	幼稚園・小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員
目的	新学習指導要領で求められる資質・能力に関する考え方を理解するとともに、探究的な学習の実現への見通しをもつ。
内容	<p>【講義・演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的な学習を実現する授業づくり～質の高い課題解決力を育成するために～(外部講師)
受講予定者数	200名
研修の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート

(3)(2)を実施する体制の概要



<広島市の英語教育の推進について>

「国際平和文化都市」を希求し、海外からの多くの人々が訪れる本市において、広島歴史や文化、まちづくりの理念や平和への願いなど、広島の思いを英語により発信する子どもたちの育成に取り組んでいる。こうしたことから、本市における外国語活動・外国語科の指導体制を見直し、英語運用能力の育成に向け、ALTを効果的に活用して、さらに言語活動を充実させた授業を行うことができるよう、広島中等教育学校、大塚中学校等の英語教育研究校の成果や好事例について公開授業研究会等を通じて、全ての小・中・高等学校などに普及する。また、指導第一課、指導第二課及び教育センターによる研修を通じて、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりができるよう、教員の指導力の向上を図る。

